

# 学校・地域・ジェンダー

## —公立男女別学高校同窓会員のライフヒストリーから—

一橋大学大学院 徳安慧一

### 1. 目的

本研究の目的は、個人のライフヒストリーにおいて、在学時および卒業後の学校にまつわる経験がどのように意味づけられるのかについて検討することである。本報告では特に、学校の所在地や学区制等の地理的な背景をふまえ、当該地域内外における学校への評価や卒業後の生活との関わりを検討するため、地域という文脈に着目する。

### 2. 方法

上記の目的から、本報告では公立男女別学高校同窓会員によるライフヒストリーをデータとして取り上げる。

同窓会は学校・地域・ジェンダーという 3 つの要素が交差する場として捉えうる。同窓会については、過去の学校の記憶や学校文化を共有することによる「再帰的社会化」や、社会関係資本としての同窓会ネットワークの形成および選挙などにおけるその活用が指摘されている（黄 2007）。一方で、同窓会ネットワークに関わる点を除いて、学校経験と地域の関係が十分に検討されているわけではない。

そこで本報告では、ライフヒストリーという個人の文脈に着目し、思春期におけるアイデンティティや学校縁の形成といった在学時の学校経験、そして共学化問題やライフコースにおけるジェンダートラックといった卒業後の学校経験の語りを分析する。

### 3. 結果

分析の結果、対象者の語りからは次のことが見出された。まず、出身や居住歴、家庭の影響である。学校や職業を通じて地域社会へ出るにあたり、男親や兄の足跡が参照される語りが散見された。女親や姉妹については、女性の教育機会や良妻賢母教育への言及が散見され、これは対象者やその親世代の女性教育を取り巻く世代的状況の影響と考えられる。これらの語りはある種のトラッキングを示しており、ここから地域における学校を通じた、ライフコースにおける個々人の出自の埋め込みを見て取ることができる。

また、女性においてはすぐに結婚したか就業するかで、男性については自身の仕事が出身地域と関わるか否かで地域に対する感覚が異なっていた。特に学校を地縁の一環として見なすかどうかについては、上記の相違に加え、世代間のギャップが見受けられた。

### 4. 結論

在学時および卒業後の学校にまつわる経験への意味づけは、家族や職業が根ざす地域の文脈と絡まり合いながら再帰的に変化するものとして捉えられていた。人生の軌跡という個々人における時間的経過の中で、学校と地域の関係はライフコース全体に埋め込むことによって強固となり、結果的に公立男女別学制を含めた現在の母校の制度的状況を既成事実的に肯定する意味づけに影響していると考えられる。

一方で、同窓会内の世代が下るにつれ、学校は地域という文脈を離れ、進学実績に基づく偏差値や家庭環境の類似といった観点から捉えられていた。こうした世代という個々人を超えた時間的要素は、地域に根ざした同窓会という紐帯に対する世代間での認識のギャップにつながっていると見られるが、この点については今後の課題としたい。